

防衛と経済の好循環

令和8年7月
防衛省

「防衛と経済の好循環」実現の必要性

なぜ「防衛と経済の好循環」か

- **今後の防衛力強化**に当たって、「新しい戦い方」を踏まえた我が国独自の対応や持続的な対応能力の強化等に取り組むことが必要。
- 民生用と安全保障用の技術の区別が困難となる中、**デュアルユース領域での生産・技術基盤の強化が不可欠**。
- この結果、①防衛力強化のための投資が国内外の民生市場における競争力の強化につながり、同時に、②国内外の民生市場の獲得により強化された生産・技術基盤が防衛装備品の質と量の向上につながる、**「防衛と経済の好循環」を実現することが可能**。

防衛力強化がどのように「好循環」に寄与するのか

- 防衛分野の取組には民生分野とは異なる次のような特性あり。
 - ① 持続的な対応能力や主体性・自律性の確保等の観点からは、**国内での開発・生産が重要**。
 - ② 無人機・宇宙・サイバー・AI等の分野は「新しい戦い方」を踏まえた我が国独自の対応のカギ。
→ **我が国の強みを生かして成長が期待される分野**と重複。
 - ③ 防衛省は、装備品を研究・開発し、これを取得。
→ 新たな技術・サービスの供給力を生み出すと同時に、**継続的な「需要」を創出**。
 - ④ 防衛省は、装備品を自ら開発・運用し、これを改善。
→ **技術・サービスの改良・高度化を、供給者に伴走**する形で実施。
 - ⑤ 防衛省は、多数の隊員、基地・駐屯地、演習場・海空域等を利用し、技術・サービスを実証・運用。
→ **民間では代替困難な実証基盤**として機能。
- これら特性を活かすことで、**防衛力強化が「防衛と経済の好循環」の大きな牽引力となる可能性**。

「防衛と経済の好循環」に資する事業の類型

(1) デュアルユース技術・サービスの研究開発を防衛省が牽引（スピノフ）

⇒ 防衛ニーズに基づき最先端技術の研究開発を実施することにより、民生・国際市場で競争力を持つ国産の製品・サービスを民間企業が創出することに寄与。



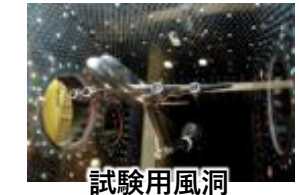
(2) デュアルユース技術・サービスを普及させる起爆剤として機能（スピノン）

⇒ 防衛分野でも使用することで、民生分野由来の技術・サービスの社会実装と製品・サービスの改良及び市場拡大を加速。



(3) デュアルユース技術・サービスの研究開発に不可欠なインフラの提供

⇒ 防衛分野の研究開発に必要となる試験・実証基盤を整備し、防衛分野に寄与しうる大学、国研、企業等と連携して活用することで、民間の最先端科学技術の研究開発を後押し。



(4) 将来性のあるスタートアップの経営基盤強化

⇒ 防衛省との契約や出融資を通じてスタートアップの信用力を高め、民間資金の呼び込みを促進。



(5) 自衛隊のサイバー防衛能力を活用した経済活動基盤の防護

⇒ 平素からのスレットハンティング等の取組を通じ、自衛隊の活動に必要な民間の経済活動基盤の防護に寄与。



「防衛と経済の好循環」に係る検討の方向性

防衛省・自衛隊として必要な防衛力強化を進めて行く中で、「防衛と経済の好循環」を実現することで、防衛力強化に対する認識を変革。

検討の方向性

- ・ 「新しい戦い方」を踏まえた我が国独自の対応や持続的な対応能力の強化等、**必要な分野に資源を重点配分**。
- ・ 地方に所在するスタートアップも含め、**優れた技術を有する企業を積極的に発掘・活用**。
- ・ 防需により生み出された国内外の市場を民生市場に拡大するため、**関係省庁と連携**。
- ・ 防衛省が防衛産業、国研・大学等、スタートアップと**研究開発エコシステムを構築**。